

J A における自己改革および SDGs の取り組み事例

《 J A 広報誌および J A 自己改革ニュース 》

R 8 / 7 ・ 8 ・ 9 月分



令和 8 年 9 月



J A 青森中央会



THE GLOBAL GOALS

【17の目標にかかるロゴマークとそれぞれの目標の解説】

目 標			
 1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	 2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
 5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	 6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	 10 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する
 11 住み続けられるまちづくりを	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	 14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	 16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

SDGsの17の目標は、各JAにおける取組みを通じてすべての目標の達成に貢献できる可能性があり、1つの取組みを通じて複数の目標達成を実現するなど、相互に関わりあう内容となっています。

目 次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
1	つがるにしきた	①地域農業の担い手として インドネシア特定技能性が活躍 ②新体制で令和8年度スタート ③アスパラガス 県内シェアの半数占める	8 働きがいも 経済成長も	10 人や国の不平等 をなくそう	17 パートナーシップで 目標を達成しよう	2026年7月号
		地域の活性化 農業者の所得増大				
2	ごしょつがる	①共済推進へ意思統一 ②高校生が農業学ぶ ③避難・消火訓練	4 質の高い教育を みんなに	8 働きがいも 経済成長も	11 住み続けられる まちづくりを	2026年7月号
		地域の活性化				
3	つがる弘前	①令和8年産りんご予約積上推進大会 開催 ②生産者園地の巡回強化 ③育苗コンクール開催	2 飢餓を ゼロに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	2026年7月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
4	相馬村	①J A L 援農 ②第3回 巡回講座開催 ③リンゴ学習 始動！！ ④7年産晩生種リンゴ 精算報告会	2 飢餓を ゼロに	4 質の高い教育を みんなに	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	2026年7月号
		地域の活性化 農業者の所得増大				
5	津軽みらい	①青年部 支部対抗ソフトボール大会を 開催！ ②各地区でトマト・ミニトマト出荷 説明会・栽培講習会	4 質の高い教育を みんなに	17 パートナーシップで 目標を達成しよう		2026年7月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
6	十和田おいらせ	①ニンジン出番 ～春夏ニンジン首都圏へ向け出発～ ②雌牛の部で豊川さん去勢牛の部で 中野渡さんがチャンピオン賞に輝く ～子牛管理共進会～	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナーシップで 目標を達成しよう		2026年7月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
7	ゆうき青森	①契約カボチャ現地講習会 ②ニンニク坪堀 2 L企画34.1%	2 飢餓を ゼロに	4 質の高い教育を みんなに	12 つくる責任 つかう責任	2026年7月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
8	おいらせ	①青年部による児童への食農活動 ②バケツ稲を指導 ③地震見舞金受領 ④金融部門県域表彰受賞	4 質の高い教育を みんなに	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう		2026年7月号
		地域の活性化				
9	八戸	①豊受神社へ豊作願い祭礼 ②にんにく 収穫前の管理方法学ぶ ③ピーマン 出荷時の注意点を呼びかけ ④ねぎ 予防散布の徹底を	2 飢餓を ゼロに	4 質の高い教育を みんなに	11 住み続けられる まちづくりを	2026年7月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
10	ごしょつがる	①種子用小麦収穫 ②無人ヘリで適期防除 ③健康見つめ直すヘルスアップ講座 ④青年部の思いを看板に	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	17 パートナースhipで目標を達成しよう 	2026年8月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
11	つがる弘前	①ピーマン新規出荷者個別ほ場巡回 ②役職員による豊作祈願・作柄巡視会開催 ③令和8年産りんご予約相談会実施	2 飢餓をゼロに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年8月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
12	相馬村	①弘前市長現地督励 ②青年部通常総会 ③ちゃぐりん寄贈式 ④シャインマスカット食育	2 飢餓をゼロに 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナースhipで目標を達成しよう 	2026年8月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
13	津軽みらい	①子ども食堂へみらい米を寄贈 ②青森県営農大学校の学生が施設見学	2 飢餓をゼロに 	8 働きがいも経済成長も 		2026年8月号
		地域の活性化				
14	十和田おいらせ	①夏秋トマト本格化 ～トマト販売収穫659トンめざす～ ②ブルーベリー最盛期！～食味良好～ ③アンパンマンたちと交通ルールを学ぼう	1 貧困をなくそう 	4 質の高い教育をみんなに 	13 気候変動に具体的な対策を 	2026年8月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
15	ゆうき青森	①しゃかしゃかむすび・みそ玉づくりわかば保育園 ②トマト出荷進む 最盛期前に説明会	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	2026年8月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
16	おいらせ	①上久保小学校 ながいも選果施設見学 ②にんにく掘り取り調査 ③採取圃で農業体験研修	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 		2026年8月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
17	八戸	①管内4年生へちゃぐりん寄贈 ②ながいも適期追肥、排水対策の徹底を ③プラム選果作業 職員が応援 ④にんにく目揃会 出荷規格や入庫方法確認	1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	11 住み続けられるまちづくりを 	2026年8月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
18-19	ごしょつがる	①小玉スイカの庭先集荷、はじめました！	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年9月号
		地域の活性化 農業者の所得増大				

ページ	J A名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
20	つがる弘前	①岩木請負剪定隊夏季研修開催 ②北地区りんご栽培勉強会夏季研修開催 ③早生種りんご熟度調査	2 飢餓をゼロに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを	2026年9月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
21	相馬村	①笑顔広がる仲間づくり講習会 ②青申会 夏期税務研修会 ③第2回農業用使用済プラスチック回収 ④J Aヘルスアップ講座	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	12 つくる責任 つかう責任	2026年9月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
22	津軽みらい	①J A共済ヘルスアップ講座 ②水稲採取圃場検査 ③よりよい営農活動講習会 ④青天の霹靂 適期刈取講習会	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	12 つくる責任 つかう責任	2026年9月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
23	十和田おいらせ	①ドキドキはじめてのおつかい～夏休み特別企画「かだあ～れでおつかい」～ ②省力化で健やかな稲づくりをサポート～ドローンを活用した水稲防除～ ③ホクホクのジャガイモを召し上がれ～ふるさとのまつり芋煮会～	2 飢餓をゼロに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを	2026年9月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
24	ゆうき青森	①伝える力を磨く 若手職員コミュニケーション研修 ②ニンニク植付前講習会 ③アロマワックスバーづくり 女性部天間林支部	2 飢餓をゼロに	4 質の高い教育をみんなに	12 つくる責任 つかう責任	2026年9月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
25	おいらせ	①人参ハーベスタ入魂式 ②にんにく出荷目揃い会 ③馬鈴薯目揃い会	2 飢餓をゼロに	17 パートナースhipで目標を達成しよう		2026年9月号
		農業者の所得増大	農業生産の拡大			
26	八戸	①第1回農政対策委員会開催 ②プラム晩成種目揃い会開催 ③ながいも 病害虫防除の徹底を	2 飢餓をゼロに	4 質の高い教育をみんなに	11 住み続けられるまちづくりを	2026年9月号
		農業生産の拡大				
27	J A横浜 (神奈川県)	女性農業者講座で約300人の女性担い手を育成	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	17 パートナースhipで目標を達成しよう	JA全中HPより引用
		地域の活性化				
28	J Aたじま (兵庫県)	小学校への独自支援 食農教育や環境保全教育で地域活性化へ	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	17 パートナースhipで目標を達成しよう	JA全中HPより引用
		地域の活性化				



3月～6月にかけての出来事を紹介します

topics

3月～



地域農業の担い手として インドネシア特定技能生が活躍

3月上旬、インドネシアからの特定技能生を受け入れました。少子高齢化の進行により農業分野では深刻な人手不足が続く中、安定的な労働力の確保を目的として受け入れを決定しました。

特定技能生は、技能試験に合格した一定の技術水準を持つ人材であり、勤勉さや協調性の高さ、日本文化への理解や関心も評価されています。



📷 苗のハウス入れ



📷 ブロッコリーの氷詰め



📷 加工用トマトの播種

来日後は、野菜や水稻の苗の運搬、加工用トマトの播種などの基礎作業から始め、ブロッコリーの氷詰め作業や株式会社にしかたの田植え作業にも従事するなど、現場で着実に経験を積んでいます。作業への意欲も高く、職員とのコミュニケーションを図りながら業務を習得し、農繁期を支える貴重な戦力として活躍しています。

J Aでは、外国人材の力を活かしながら生産性向上を図るとともに、地域農業の持続的な発展につなげていきたいと考えています。

4/1



新体制で 令和8年度スタート



📷 辞令交付式で誓いの言葉を発表する新採用職員（真ん中）

4月1日、本店で令和8年度辞令交付式を行いました。今年度の人事異動対象者は57名で、新たに10名の新採用職員を迎えました。

式では、組合長から一人ひとりに辞令が手渡され、「組合員や職場内でのあいさつの励行、密なコミュニケーション、そして迅速な『報告・連絡・相談』を徹底してください。組織が変化の波を乗り越えるには、職員一人ひとりの創造力と組織の結束力が不可欠です」と訓示しました。

4/21



アスパラガス 県内シェアの半数占める



📷 アスパラの出荷規格を確認する部会員

4月21日、つがる白神やさい・果実部会のアスパラ・そさい班は、白神野菜センターでアスパラガス出荷説明会を開催し、関係者約70名が参加しました。

太さや茎、穂先などの選果基準を共有し、本年度の総出荷数量90t、総販売額1億80万円の目標を掲げました。

班長の長谷川誠さんは「新規就農者や農家へ転身する若い人が増えている。そうした人たちが生活できる産地を目指し、鰯ヶ沢町のアスパラガスの知名度をさらに高めたい」と意気込んでいます。



6月12日

共済推進へ意思統一

ブラザマリニュー五所川原で「共済目標必達決起集会」を開き、共済担当職員らが目標達成に向けて気持ちを一つにしました。全共連青森県本部やJA役職員合共35人が出席しました。

集会では「原点回帰」をテーマに掲げ、組合員や利用者を訪問して近況や保障内容を確認する3Q活動を充実させ、対話を重ねながら、一人一人に合った保障の提案を進めることを確認しました。

職員代表による決意表明では、新任ライフアドバイザー（L.A.）の松橋亜津里さんが「3Q活動を通じてお客様と信頼関係を築き、感謝していただけるL.Aを目指します」と力強く述べました。

2026年度の共済推進総合目標は340万円。参加者は27年1月末までの目標達成を誓いました。



目標必達に向けて決意表明する松橋さん

6月19日

高校生が農業学ぶ

五所川原高校定時制の生徒3人が、総合的な探究の時間の 일환で当JAを訪れ、農業について学びました。

生徒らは、特に6次産業化やスマート農業に興味を持ち、JA職員から地域農業の現状や取り組みについて説明を受けました。

営農指導を担当する米穀課の成田涼さんが、衛星画像データを活用したICTシステム「青天ナビ」を紹介し、水稻の生育状況や水管理に役立っていることを説明。スマートフォンで圃場ごとの生育状況を確認できることなど、実際の活用方法を伝えました。

生徒らは説明を聞きながら質問を重ね、地域農業への理解を深めました。



スマートフォンで「青天ナビ」の画面を確認する生徒ら

6月20日

避難・消火訓練

本店で避難・消火訓練を実施しました。職員約50人が参加し、火災発生を想定して避難経路や初期消火の手順を確認しました。

訓練では、館内で火災が発生した想定で、職員が役割分担を確認しながら避難誘導や安全確認を行いました。その後、消火器を使った消火訓練を行い、操作方法や使用時の注意点を学びました。

職員は訓練を通じて、迅速な避難と初期対応の重要性を再確認し、防火意識を高めました。



消火器を使った消火訓練に取り組む職員





令和8年産
りんごスローガン

J Aつがる弘前の想い
「一粒に込めた一年。りんごにかけた情熱。」
J Aつがる弘前はその想いを消費者へ届けます。

5
25

令和8年産りんご予約積上推進大会開催



当J Aは、河東地区りんご施設で令和8年産りんご予約積上推進大会を開催しました。生産者や役員、市場関係者約100人は、今年産の原箱取扱目標数量240万箱達成に向け、意思統一を図りました。

天内組合長は令和7年産りんごの販売状況や令和8年産りんごの生育概況を報告し「目標必達に向け共通認識のもと、りんご生産者への積極的なアプローチと的確な情報提供で、一箱でも多くの予約積み上げをお願いしたい」とあいさつしました。

続いて、来賓として訪れた大果大阪青果株式会社専務取締役の荒巻万寿夫さん、J A全農あおもりりんご部長の福岡静さんが情勢報告をしました。管内4地区それぞれ、目標必達確認を行った後、りんご振興協議会の藤田満会長の発声のもと、出席者全員でガンパロー三唱を行いました。

5
25

生産者園地の巡回強化



役員やりんご部会の委員をはじめ、地区部長、支店長、営農係、販売係、窓口対応をする支店職員などは、りんご生産者の園地を巡回し、生育状況や作業状況を確認しながら令和8年産りんごの入庫を呼びかけました。

巡回した職員は、令和7年産りんごの精算を報告しながら、現在の状況確認を行いました。

5
13

育苗コンクール開催



十腰内支店水稲部会は、本格化する田植え前に健苗育成に向けた育苗コンクールを開催しました。同部会は、おいしいお米作りを目指し、20年にわたり継続して開催しています。

青森県中南農林水産事務所農業普及振興室の担当者が、令和8年産の栽培に向けた高温対策や斑点米カメムシ類防除など、想定される課題やその対策などについて説明しました。その後、部会員のハウスや圃場を巡回し、病害虫の発生程度、苗の硬さ、苗長など数項目を調査しながら、健苗育成のためのポイントや今後の管理について確認しました。



工藤一正部会長は「健苗育成は、稲作の成功に直結する。気象に合わせた栽培管理が重要なので、毎年コンクールを通じて苗の状態を確認し、おいしいお米を消費者に届けたい」と話しました。



丁寧な作業で安心しておまかせ！

6月16日から18日までの3日間、紙漉沢地区の成田達也さんの園地に日本航空（JAL）のパイロット1名と客室乗務員3名が訪れ、リンゴの摘果作業を支援しました。参加者には、収穫や摘果の経験者も含まれており、手際よく作業を進めていました。作業を終えたメンバーからは「丁寧な作業を通じて美味しいリンゴが育つ過程を間近で見られて幸せ。お手伝いしたこの園地を是非また訪れたい」と産地への愛着がこもった嬉しい感想が寄せられました。

JA支援農



第3回 巡回講座開催



昨年、発生したカメムシについて質問が上がっていた

6月18日、管内12カ所で行った巡回講座が開催され、生産者106名が参加しました。農業振興課より今後の管理作業や病害虫対策を解説し、販売課からは、令和8年産からの選果基準の変更点や、サンふじと有袋ふじ18キロ換算で約3,000円の市場価格差が生じている現状などが説明されました。また、今回は常勤役員も同行し、令和7年産リンゴの精算について説明。日々の農作業を労うとともに、今後のJA事業への一層の協力を呼びかけました。



児童に作業手順を説明しサポートします。

6月18日、相馬小学校の3年生9名がリンゴ学習で摘果作業を体験しました。園主の田澤俊明さんから説明を受けた児童らは、保護者やJA女性部員のサポートのもと作業を開始。コツを掴むと、熱心に作業を進めていました。当日は、テレビ取材もあり、代表児童2名が緊張を感じさせない堂々としたインタビュー対応を見せて周囲を驚かせる場面も。作業後にはリンゴジュースで乾杯し、地域の基幹産業を肌で感じる貴重な体験となりました。次回は10月に「葉とり作業」を行う予定です。

リンゴ学習 始動!!

7年産晩生種リンゴ
精算報告会

6月19日、相馬管内2カ所で行った令和7年産リンゴ晩生種精算報告会を開催しました。

挨拶に立った大場組合長は、事業利用への感謝を述べ、「豪雪による減収を補うためにも有袋ふじ等の導入による付加価値をつけるのも一つの案である」と話した。あわせて、コスト上昇に伴うリンゴ販売手数料の3%への改定に理解を求めました。

市場情勢報告では、大果大阪青果株平川課長代理が前年の販売を振り返り、「今期も安定した品質・数量の確保が必須です。一玉でも多

くの農協出荷をお願いしたい。高値精算に向け全力を尽くす」と力強く呼びかけました。



市場情勢を詳しく話す大果大阪青果株平川課長代理



青年部 支部対抗ソフトボール大会を開催！

みなみ地区青年部は6月14日、小和森小学校で支部対抗ソフトボール大会を開きました。

各地区の青年部が、スポーツを通じて交流を深めることを目的として行われ、当日は6チーム計85人の部員が参加しました。試合は総当たり戦で行われ、ピッチャーは軽い下投げのみとし、勝敗にこだわるのではなく、楽しむことを重視して行われました。和やかな雰囲気の中でも熱戦が繰り広げられ、平賀地区松崎支部が優勝を果たしました。

大会終了後は本店駐車場で懇親会が開かれ、参加した青年部員は焼肉を楽しみながら交流を深めました。



ソフトボールで交流する青年部員



画面で伝えきれない様子は動画でチェック!!



懇親会で焼肉を楽しむ参加者



各地区でトマト・ミニトマト出荷説明会・栽培講習会

6月23日、平賀園芸センターで令和8年産ミニトマト出荷説明会・栽培講習会が行われ、76人の生産者が参加しました。

講習会では高温障害対策資材の活用方法や収穫の判断方法についての説明が行われました。参加した組合員は配られた資料を見ながらミニトマトについて理解を深めました。

また6月24日には田舎館支店でトマト・ミニトマト高温対策資材等講習会が行われました。OATアグリオ株式会社の笹野翔伍氏を講師として招き、BS（バイオスティミュラント）製品の特徴と紹介、植物の高温耐性、試験結果などについて説明が行われました。



資料を確認しながら説明を受ける生産者（平賀園芸センター）



平賀園芸センターにて行われた講習会の様子はコチラから動画でチェック!!



栽培管理を確認する生産者（田舎館支店）



ミニトマト品種の違いを確認する生産者

6/25 12月12日

ニンジン出番

～春夏ニンジン首都圏へ向け出発～

ももいし野菜センターでニンジンの初出荷式を開き、生産農家やJA作業員、運送会社の関係者ら60人が出席しました。本年産の生育は、は種後に強風が続き乾燥気味で推移したものの適度な降雨により生育が順調に進み、1本あたりの重さは平年を上回る見込みです。

ピーク時は管内全体で日量16,000ケース(10キロ/ケース)を出荷する計画で、シーズン取扱高7億8,000万円超えを目指します。

出荷式では、農家の代表やJA役職員ら6人のテープカットで安全な運搬を願いました。この日は、個選・共選合わせて6,000ケースの出荷となりました。



▲テープカットで安全運搬を祈願する関係者ら

春夏ニンジンのお荷は8月上旬まで続きます。主なお荷先は首都圏や関西、中京、北陸などの青果市場で、JAでは高品質の維持に努め高値取引を目指していきます。

6/5 17日

雌牛の部で豊川さん 去勢牛の部で中野渡さんが チャンピオン賞に輝く ～子牛管理共進会～

当JAと十和田市黒毛和種改良組合は、三本木畜産農協構内で子牛管理共進会を開きました。審査の結果、雌牛の部で豊川孝将さん出品の「れいら」、去勢牛の部で中野渡成人さん出品の「喜桜」がチャンピオン賞に輝きました。

同共進会は飼養管理技術の向上と優良な雌牛を地元に残す保留牛の選抜を目的に年4回開いています。この日は、市内の繁殖農家21戸が育てた月齢12カ月未満の雌牛27頭、去勢牛20頭が出品され、脂質や品位、体形、月齢に見合った発育かななどをチェックしました。

審査員の青森県畜産協会経営支援課の阿保洋一課長は「チャンピオン賞に輝いた雌牛は、非常に発育が良く和牛らしい骨格の絞まりに優れていた。去勢牛は出品された全牛とも発育が良好のなか、特に腿の張りの充実度が優れていた」と話していました。



▲雌牛の部チャンピオンの「れいら」と豊川さん



▲去勢牛の部チャンピオンの「喜桜」と中野渡さん

結果は次のとおりです

チャンピオン賞	▷雌牛の部＝豊川孝将	▷去勢牛の部＝中野渡成人
優秀賞1席	▷雌牛の部＝下久保勇樹	▷去勢牛の部＝小川隆
優秀賞	▷雌牛の部＝久保英美、農工園、折田正勝、前川原弘文、宮内雅弘	
	▷去勢牛の部＝小笠原正男、今泉成一	
優良賞	▷雌牛の部＝白山雄治郎、久保英美、農工園、沢目喜代人、中野渡成人、下久保賢直、前川原弘文	
	▷去勢牛の部＝坂本秀美、農工園、下久保賢直、東一仁	

6/12 契約カボチャ現地講習会



生育状況を確認する生産者ら

J A ゆうき青森野菜振興会は、東北町でカボチャの現地栽培講習会を開催した。生産者ら約20人が参加し、収穫までの管理方法について確認した。

同会では、2022年から契約カボチャの栽培を推進。本年度は生産者47人が15㍏を栽培する。

この日は、生産者の土橋重幸さんの圃場（ほじょう）で、実際の生育状況を確認。生産者らは、摘芯や灌注のタイミング、「うどんこ病」の予防策などについて講師に直接確認していた。

収穫時期は7月下旬から始まり、8月に最盛期を迎える。

6/15 ニンニク坪堀 2L規格34.1%



規格を確認する作業員

J A ゆうき青森野菜振興会にんにく部会は15日、東北町や七戸町、六ヶ所村でニンニクの坪堀調査を実施した。2L規格は34.1%と前年を19.5㍏上回った。部会は「前年より収穫時期が早まる。計画的に収穫を進めてほしい」と呼び掛けている。

5月の乾燥により、病害の発生が少なく、6月の肥大期に降雨が続き生育が進んだ。

L規格以上は88%、A品率は49.9%。

調査には、生産者37人とJ A職員らが参加。圃場から30本ずつ掘り取り、10㍏当たりの予想収量と等級の割合を調べた。

6/15 特殊詐欺防止！天間林支店でチラシ配布



支店利用者へチラシを配る防犯指導隊員

七戸警察署と七戸防犯指導隊員がJ A ゆうき青森天間林支店で特殊詐欺の防止活動を行った。

青森県警によると2025年の特殊詐欺被害状況は、認知件数が155件（前年比58件増）、被害金額が約6億292万円（同4億2714万円増）で過去最高の被害金額となっている。

この日は同警察署職員と防犯指導隊員3名が防止活動に参加。「特殊詐欺に気を付けてください」と呼び掛けながらチラシと粗品を手渡し、注意を呼び掛けた。

当J Aでは、マネロン・金融犯罪対策リーダーを選任し、マネロン・金融犯罪対策の定着化・高度化に向けて進めている。



青年部による児童への食農活動

三沢市立おおぞら小学校で5月25日に、六戸町立義務教育学校六戸学園で5月29日に各地区の青年部員と田植えを行いました。この活動は地域の子供たちに食と農を身近に感じ、理解を深めてもらう目的で毎年取り組んでいます。

おおぞら小学校では4～6年生が参加し、「苗は3本、心はひとつ」を合言葉にモチ米「アカリモチ」の苗を植えていきました。

六戸学園では5年生の児童が「はれわたる」の苗を植え、泥の感触に歓声をあげ楽しむ様子が見られました。田植えをした児童たちは、「きれいに植えるのが大変で、農家の苦労が分かった」「収穫したお米を早く食べたい」などと笑顔で話しました。

青年部は秋の収穫まで防除や管理をして児童の米作りに協力していきます。



おおぞら小学校



六戸学園



バケツ稲を指導

青年部三沢地区は5月27日、三沢市立古間木小学校5年生にバケツ稲作りの出前授業を行いました。

青年部員と本店指導課の職員が参加し、児童らは青年部員からアドバイスをもらいながら、土と肥料に水を加えて混ぜた後に、「まっしぐら」の稲を植え、気温に応じた水管理の仕方などについて指導を受けました。

植えた稲の収穫は、10月中頃を予定しています。



地震見舞金受領

5月12日本店で、令和7年度青森県東方沖を震源とする地震に伴う特別災害救援活動に対する見舞金の贈呈が行われました。JA共済連青森の葛西真司本部長が来組され、地震に伴う見舞金として中屋敷一夫組合長が目録を受け取りました。



金融部門県域表彰受賞

5月20日本店で、2025年度県域表彰が行われました。当組合が優績 JA の部で奨励賞、本店金融課が優績店舗で優秀賞を受賞したことを受け、農林中央金庫青森支店の坂本支店長が来組され、表彰状と副賞の目録が授与されました。



蠍 座
10/24～11/22

【全体運】注目度が上がり周囲の支援を受けられます。やりたいことを明確に。困難に立ち向かう姿勢が幸運につながります。
【健康運】下半身の冷えに気を付けて。トイレは我慢しないで。
【幸運の食べ物】トウモロコシ

天秤座
9/23～10/23

【全体運】目標は大きく、そして小さな歩から始めましょう。計画性がものをいいます。うまくいったプランを参考に。
【健康運】体力アップのチャンス。しっかりと食べて鍛えて。
【幸運の食べ物】レタス

11 豊作祈願祭



▲ 奉納する金澤常務

5月27日、田子町の八坂神社境内にある豊受神社にて、奉納祭礼を行いました。

合併前から毎年行われている行事で、金澤幹雄 営農経済担当常務、田子地区の役員のほか、三戸支店、三戸営農経済センターの職員が参加し執り行われました。

鯛の尾頭付きや米、お神酒等をお供えし、女性部田子支部手作りのよもぎ餅を加え、昨年の感謝と今年も豊作による農業の繁栄を祈願しました。

豊受神社へ豊作願ひ祭礼

1 栽培講習会 2 説明会 3 収穫祭



▲ 説明に耳を傾ける参加者

にんにく専門部は6月3日と5日、管内14ヶ所で栽培講習会を行いました。このうち、五戸営農経済センター（東部）で行った講習会では、25人が参加しました。

農業普及振興室の吉田理見技師が講師を務め、今後の栽培管理と病害虫防除のポイントを説明しました。講師は「昨年に比べると病気は少ないようですが、雨の予報もでているため、予防防除に努めてください」と呼びかけました。

生育は平年並みとなっており、管内では6月15日ごろから収穫開始となりました。

にんにく 収穫前の管理方法学ぶ

1 栽培講習会 2 説明会 3 収穫祭



▲ 説明に耳を傾ける参加者

ピーマン専門部八戸支部は6月16日、八戸市農業生産振興センターで栽培講習会と目揃会を行い、57人が参加しました。

講習会では、農業普及振興室の吉田理見技師が講師を務め、整枝や誘引の注意点のほか、乾燥や大雨後の対策や追肥のタイミングを説明しました。さらに、病害虫の予防防除を徹底するように呼びかけました。

目揃会では、八戸営農センターの三浦義博販売担当が出荷規格や品質基準を説明。虫食いやハリの無いものは出荷しないよう呼びかけたほか、赤果になる前に適期での収穫をお願いしました。

ピーマン 出荷時の注意点を呼びかけ

1 栽培講習会 2 説明会 3 収穫祭



▲ 予防散布を呼びかける講師

ねぎ専門部は6月2日と4日、管内4ヶ所で栽培講習会を行いました。このうち4日、五戸営農経済センター（東部）で行った講習会では10人が参加しました。

農業普及振興室の木下貴之主幹が講師を務め、土壌診断に基づいた土づくりと培土時期、病害対策のポイントを説明しました。講師は「定植後、降雨が少なく乾燥傾向にあるため、生育は遅れて推移しています。生育に遅れがみられる圃場では、葉面散布剤を活用し生育促進に努めてください」と呼びかけました。

さらに、培土する際、高温時や降雨後には、焼け症状や軟腐病が発生しやすいため、控えるよう説明しました。また、薬剤散布は、予防散布を主体とし、系統の異なる薬剤をローテーション散布するよう促しました。

ねぎ 予防散布の徹底を



7月6日

種子用 小麦収穫

管内で種子用小麦の刈り取りが行われました。黄金色に染まった圃場をコンバインが進み、次々と刈り取っていききました。生育はおおむね順調で、刈り取りは平年より早く進みました。

収穫した小麦は乾燥・調製を経て、発芽検査を受けます。合格すると、8月中旬から県内の生産者へ供給されます。

同JAは県内で供給される小麦種子の8割を生産しており、県内の安定生産を支える重要な役割を担っています。

種子用小麦を
刈り取るコンバイン



7月14日

無人ヘリで 適期防除

経済課は14日から、管内で無人ヘリコプターによる薬剤散布を始めました。いもち病や紋枯病、カメムシ類などの病害虫防除と生産者の労力軽減を目的に、8月下旬まで水稲と大豆合わせて1935畝で実施します。

初日はつがる市木造地区でJA職員3人が作業を担当。無人ヘリで、約1畝の水田へ5分ほどで薬剤を均一に散布し、安全を確認しながら作業を進めました。

作業は天候を見ながら、水稲4回、大豆2回の計6回を予定。主食用米の作付面積増加に伴い利用も拡大しており、担当者は「散布適期を逃さず、安全第1で作業を進めたい」と話しました。



水田へ薬剤を散布する担当者

7月15日

健康見つめ直す ヘルスアップ講座

JA共済連青森は、五所川原市のプラザマリユウ五所川原で「JA共済ヘルスアップ講座」を開き、当JAの役職員と女性部員40人が参加しました。健康に関する講演やヘルスチェックを通じて、健康づくりへの意識向上を図りました。

講演では、健診の大切さやフレイル予防、自宅でき運動を学び、参加者は自身の健康について理解を深めました。

会場には体組成や野菜推定摂取量などを測定できるヘルスチェックコーナーも設けられ、参加者は測定結果を確認しながら、健康づくりへの意識を高めました。



健康づくりについての講演

7月15日

青年部の 思いを看板に

青年部は、食や地域農業の魅力発信を目的に毎年制作している手づくり看板を完成させました。部員が協力してデザインや色付けを行い、力強い作品に仕上がりました。

看板には農業への感謝や生産者の思いを込めるとともに、米やリンゴ、メロン、スイカなど管内の特産品も描き、地域農業の魅力を表現しました。

完成した看板は「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」に出展予定。現在はJA農産物直売所「まるっと新鮮館」に隣接するリンゴ冷蔵庫の壁面（国道101号線沿い）に設置し、青年部活動や地域農業の魅力をPRしていきます。



看板の完成を喜ぶ青年部員





ピーマン新規出荷者個別ほ場巡回



ご作業の農閑期に収穫が本格化するピーマンの作付者は管内全域で増加傾向にあります。生産係と各地区営農係の職員は、安心して栽培に取り組むことができるよう新規作付者全員のは場に出向き、定植前のほ場確認、定植後の活着確認、その後の生育確認を行っています。6月24日、大鰐町のほ場に出向き、苗の生育状態や病害虫の発生状況の確認、ネット張りなどを実演しながら作付者の相談に対応しました。生産係の鈴木係長は「現場に出向いての指導を徹底し、セミナーでは伝えきれない個々に必要な生育管理などを伝え、全力で部会員の所得向上に取り組む」と意欲を見せました。



当JAは、春先から夏場にかけての収入確保と継続した作業員確保のため、りんごとの複合経営としてピーマンや桃、アスパラガスなどの園芸作物の作付けを推奨しています。中でも、初期投資が少なく軽量で、りんご作業の農閑期に収穫が本格化するピーマンの作付者は管内全域で増加傾向にあります。生産係と各地区営農係の職員は、安心して栽培に取り組むことができるよう新規作付者全員のは場に出向き、定植前のほ場確認、定植後の活着確認、その後の生育確認を行っています。6月24日、大鰐町のほ場に出向き、苗の生育状態や病害虫の発生状況の確認、ネット張りなどを実演しながら作付者の相談に対応しました。生産係の鈴木係長は「現場に出向いての指導を徹底し、セミナーでは伝えきれない個々に必要な生育管理などを伝え、全力で部会員の所得向上に取り組む」と意欲を見せました。

当日JAは、春先から夏場にかけての収入確保と継続した作業員確保のため、りんごとの複合経営としてピーマンや桃、アスパラガスなどの園芸作物の作付けを推奨しています。中でも、初期投資が少なく軽量で、りんご作業の農閑期に収穫が本格化するピーマンの作付者は管内全域で増加傾向にあります。生産係と各地区営農係の職員は、安心して栽培に取り組むことができるよう新規作付者全員のは場に出向き、定植前のほ場確認、定植後の活着確認、その後の生育確認を行っています。6月24日、大鰐町のほ場に出向き、苗の生育状態や病害虫の発生状況の確認、ネット張りなどを実演しながら作付者の相談に対応しました。生産係の鈴木係長は「現場に出向いての指導を徹底し、セミナーでは伝えきれない個々に必要な生育管理などを伝え、全力で部会員の所得向上に取り組む」と意欲を見せました。



として当JAが推奨する啓翁桜の栽培を見学し、同法人が啓翁桜を作付けた理由などを聞き取りました。また、同じく小沢でピーマンを栽培する石岡優人さんのほ場では、作柄状況などを確認しました。



7
13

役職員による豊作祈願・作柄巡視会開催



天内組合長をはじめ役職員は、豊作祈願および作柄巡視会を行いました。百沢にある岩木山神社では、参列した役職員が神前に玉串を奉てんし、農作物の豊作と農作業の安全を祈願しました。

豊作祈願終了後は、小沢にある農事組合法人しみずのほ場を訪れ、冬の収入確保

6
~

令和8年産りんご予約相談会実施



令和8年産りんごの予約申込みに向け、予約相談会を実施しました。

北地区では弘前北支店と十腰内支店で、北地区予約イベントを開催し、来場者特典や生産者応援フェアとして特別価格でレインウェアを販売したほか、(株)マキタの草刈り機やチェーンソーなどの展示販売、提携JAであるJA北つくばなどから取り寄せた農作物販売を行い、たくさんの方々が作業の合間に来場しました。

予約申込みに足を運んだ生産者は「予約申込みのついでに農作業機具も見ることができて良かった。次は、冷たいアイスもあったらいいのに」と笑顔で話しました。

今後も各地区の特色を活かしたイベントを開催していきます。



弘前市長現地地督励

17 弘前市

7月1日、谷川政人市長が相馬管内の園地を訪れました。今年の豪雪について、園主の三浦剛さんは「この園地で3回雪下ろしをしたおかげか、枝折れや苗木を含めても5〜6本の被害で済んだ」と状況を説明しました。数日中に袋掛けを終え、仕上げ摘果へ移ると今後の作業予定について話したあと実際に園地を回り、雪害により支柱で支えられた樹などを視察しました。谷川市長は「市でもかすがいやボルトなどに補助を出せるよう、これからも働きかけていきます」と力強く語り「これから暑い日も続きますので熱中症や熊による被害に十分気を付けて作業にあたってください」と園主を激励しました。



豪雪における現状を話す三浦さんと谷川市長

青年部通常総会

2 相馬市

7月8日、青年部通常総会が開催され、24名が出席しました。三浦剛部長は挨拶で「60周年の節目を越え、厳しい自然災害の中でも横のつながりを大切に高め合ってきた。勉強会などを通して充実した1年にしてほしい」と語りました。続いて、JA相馬村の溝江翼理事が挨拶に立ち、任期に伴い在籍を続けることに触れたうえで「農協への意見があれば気軽に声をかけてほしい。リンゴの入庫数が1箱でも多く増えるよう協力をお願いしたい」と呼びかけました。総会で勇退予定だったメンバー数名が残り、今後は、縁の下での力持ちとして組織を支えることとなり、さらなる青年部の発展が期待される総会となりました。



部員に要望を話す溝江理事

ちゃぐりん寄贈式

16 相馬市

7月10日、山内利彦理事金融共済部長が相馬小学校の校長室を訪れ、図書委員会の清野おはなさんが代表して「ちゃぐりん」を受取りました。贈呈式では、清野さんは「これまで詳しく読んだことがあまりなかったのですが、この夏休みを利用してじっくり読んでみようと思います」と嬉しそうにお礼を述べました。今回寄贈されたちゃぐりん8月号は、夏休みに入る前に全校児童74名全員へ届けられます。

子どもたちが長い休み期間中も、この本を通じて農業や食べ物、農作物の大切さ、農作物への関心を深めてくれることが期待されています。



ちゃぐりんを受け取る図書委員の皆さん

シャインマスカット食育

2 相馬市

7月11日、相馬小学校4年生の親子レクでシャインマスカットの摘粒作業を体験しました。佐々木指導員から「たくさん実がなっているの、1房40粒くらいまで減らすことで、残った実1つ1つに栄養が十分にいき渡り、果実も大きくなります」と説明を受けました。どのような粒を間引けばよいかがポイントを聞いたあと、自分で作業をする房に名前をつけて作業を開始しました。子供たちは「もっと実を減らしたらいですか」と近くの振興課職員にアドバイスをもらいながら作業をしていました。参加した寺田琉叶くんは「作業は難しかったが、楽しかった」と感想をくれました。



美味しいシャインマスカットができますように～

2 食糧と
食料



子ども食堂へみらい米を寄贈

7月17日と21日、「社会福祉法人睦会」「特定非営利活動法人くろいし」「いしかわ屋食提供プロジェクト実行委員会」「社会福祉法人板柳町社会福祉協議会」の4団体へ「みらい米」を寄贈しました。

提供した食材は孤食の解消や地域交流の場として親しまれている「子ども食堂」で活用されます。

贈呈式で奈良寧組合長は「農家の皆さんが丹精込めて作ったお米を大切に味わって食べていただければと思います」とあいさつしました。

当JAでは引き続き、食育活動や食材の提供を通じて、地域に根差した活動に取り組んでまいります。



特定非営利活動法人くろいし(右)へみらい米を寄贈する奈良組合長



社会福祉法人睦会(右)へみらい米を寄贈する奈良組合長



社会福祉法人板柳町社会福祉協議会(右)へみらい米を寄贈する奈良組合長



いしかわ屋食提供プロジェクト実行委員会(右)へみらい米を寄贈する吹田定義常務(営農購買担当)

8 食糧と
食料



青森県営農大学校の学生が施設見学

7月23日、青森県営農大学校の学生35人が当JAの施設見学を行いました。

学生らは黒石青果センター、平川カントリーエレベーター、産直センターひらか、本店、サンフェスタいしかわを見学しました。

施設見学に加え、JA青森中央会による農協全体の説明のほか、当JA職員が管内農業の概要や取り組み、業務内容について紹介しました。

また、学生と当JA職員による意見交換会も実施しました。「なぜ津軽みらいに就職したの?」「仕事の中で大変なことは?」など、たくさん質問が寄せられ、職員は自身の経験を交えて回答しました。



平川カントリーエレベーター内を見学する学生



意見交換会を行う学生とJA職員



学生へ津軽みらいの概要を説明するJA職員

7/3



夏秋トマト本格化

～トマト販売収穫659トンめざす～

6月下旬から七戸支店管内を中心に、夏秋トマトの収穫作業が盛んに行われています。本年産は、朝晩の低温や日照不足によって着色が若干遅れているものの、実は大ぶりで順調に生育しています。出荷は10月まで続く予定です。

野菜振興会とまと専門部会では管内の主力品種は大玉の「りんか409」で、本年度は年間販売数量659トン、販売高2億5,000万円超えを目指しています。県内外の重点市場に向けて長期的な安定出荷を行い、目標達成を目指してトマト巡回や出荷目ぞろえを行っています。

瀬川博文部会長は「適期収穫と高温対策を徹底し、安定出荷につなげたい」と管理作業に精を出していました。



▲トマト巡回で品質を確認する生産者

7/21



ブルーベリー最盛期!

～食味良好～

6月下旬からブルーベリーの収穫が盛んに行われています。L・Mサイズが中心で、食味や収量は良好です。県内市場を中心に日量800パック(1パック100g)、多い時で1,000パックを出荷しています。出荷は8月上旬まで続きます。

8品種、約500本を栽培する藤坂支店管内の國分弘志さんは、「今年は適度な降雨に恵まれ、甘味と実付きが良く、最高の収穫となっています。酸味と甘味のバランスが良く、良い仕上がりになった。生食が一番おいしい。たくさん食べて旬を味わってほしい」とアピールしていました。



▲ブルーベリーの収穫作業に追われる國分さん

7/5

アンパンマンたちと 交通ルールを学ぼう

当JAとJA共済連青森県本部はJA本店で、「JA共済アンパンマン交通安全キャラバン」を開きました。参加親子約1,110人が、アンパンマン達と一緒に歌や踊りを通して楽しみながら、横断歩道の渡り方や信号機の色の意味、道路への飛び出しの危険性など、交通ルールを学びました。

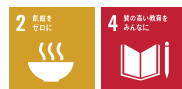
イベント終了後の握手会では、大好きなアンパンマンたちとのふれあいに、子ども達は目を輝かせていました。



▲©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

7/10

しゃかしやかむすび・みそ玉づくり わかば保育園



みそ玉づくりの様子

J A ゆうき青森女性部は野辺地町のわかば保育園で、「しゃかしやかむすび・みそ玉づくり教室を開催した。同園の年長クラス12人の園児が参加。女性部員やJ A 職員は、園児たちのサポート役となり、美味しくできるコツを指導した。

エプロンとバンダナを身に着けて準備万端な園児らは、初めにみそ玉作りに挑戦。袋に入った味噌や乾燥わかめを揉みながら混ぜあわせ、ラップで丸めた後は星や花の形をした麩を使って思い思いにトッピング。県産米「まっしぐら」を使用したおにぎり作りでは、ご飯を入れた紙コップを両手で「しゃかしやか」と振りながら楽しんでいた。

実際に味わった園児らは「可愛く出来て楽しかった。お家でも作りたい」と満足気だった。

教室は、未就学児を対象に食農教育活動や米の消費拡大を目的とした青森県農協女性組織協議会、青森県農協青年部協議会の共同事業として開催。同J A 管内での開催は初めて。



完成したおにぎりともそ玉を披露する園児らと女性部員、J A 職員ら

7/14

トマト出荷進む 最盛期前に説明会



規格を確認する生産者ら

J A ゆうき青森の夏秋トマトの出荷が最盛期を迎えようとしている。春先は雪解けも早く、育苗・定植は比較的スムーズに行われた。定植後もおおむね順調に進み、8月上旬ごろから本格的なピークを迎える見込みだ。

J A 野菜振興会トマト部会では、糖度が高く食べ応えのある「りんか409」を中心に25人の生産者が4.1ヘクタールのハウスで栽培する。出荷は11月中旬ごろまで続き、今季は出荷数量287ト、販売高は1億円突破を目指す。

出荷最盛期を前に同部会は14日、出荷説明会を開催。生産者や市場関係者ら約30人が参加して、出荷基準や栽培管理方法を確認。今年度から隣接するJ A 和田おいらせで共同選果が行われることから、出荷時の注意点などについて質問が挙がった。



双子座 (5.21~6.21)

〈全体運〉調整が難しそうに思われたことも下旬には好転。余計なことを言うとか後で足を引っ張られるので発言は慎重に〈健康運〉サウナでストレス発散。有酸素運動もお勧め〈幸運の食べ物〉ミョウガ



上久保小学校 ながいも選果施設見学

三沢市立上久保小学校3年生は、6月3日に社会科の授業で三沢市谷地頭にあるJAおいらせながいも洗浄選別施設を訪れ、春掘りながいもの選果作業や施設を見学しました。

本店販売課の職員が施設を案内し、ながいもが保管されている貯蔵庫や選果作業について説明しました。児童は、選果作業に使われている機械などの絵を描きながら真剣にメモをとっていました。

販売課の担当者は、児童らにながいもが箱詰めされる前の工程を見せながら、「ながいもを1日20トン選果している」と説明すると、児童は生産量の多さに驚いていました。

施設見学後、会議室へ移動し座学を行いました。児童らは仕事のやりがいや、出荷場所などについて質問を行い、JAや地域農業への理解を深めました。



にんにく掘り取り調査

やさい推進委員会にんにく部会三沢地区は6月12日、にんにくの坪掘り調査を行いました。生産者が事前に掘り取ったにんにくを計測調査し、収穫適期を判断しました。生育は平年並みに順調で、にんにく部会は今年度約1100トンの出荷量を目指します。

指導課と上北農林水産事務所農業普及振興室三沢分室が市内12か所を巡り、生産者延べ30人が参加しました。生産者は畑から掘り取った9株のにんにくを並べ、指導課の担当者らが直径や葉数、糖度などを計測しました。計測結果から総合的に判断し、生産者それぞれに収穫適期を指導しました。

指導課の担当者は、「収穫適期に掘り取りを進め、品質の良いうちに収穫を終えてほしい。また、降雨が続くと割れが多くなったり、品質が低下するため、天気によっては早めに収穫をすることが重要。」と呼びかけました。



採種圃で農業体験研修

三沢市内にあるJAおいらせにんにく採種圃でにんにくの収穫と、根切り作業を行いました。今回のにんにく収穫・根切り作業には、職員農業体験研修の一環として入組5年目までの若手職員10人が参加し、圃場での収穫作業を行いました。

今回収穫したにんにくは、昨年10月に指導課職員と若手職員が植えたもので、参加した職員は、「今年も貴重な農業体験で、農業の大変さを再度学ぶことができました。」と話し、農業への理解を深めました。





▲ 出町校長先生(右)へ手渡す木村専務(左)

JAは7月8日、五戸町立五戸小学校で『ちゃぐりん』8月号を贈呈しました。木村照男専務が同校を訪れ、出町智校長先生へ手渡しました。

JAでは、毎年管内の小学4年生を対象に夏休みの自由研究や工作などの学習資料として活用していただくため、『ちゃぐりん』8月号を寄贈しています。今年は管内の小学校33校の4年生1,046名分を送りました。

木村専務は「ちゃぐりんには、農業について豊富に掲載されています。ちゃぐりんを通じて、将来、少しでも農業に興味をもってほしい」と述べました。

JAでは『ちゃぐりん』を毎月1冊、管内の小学校へ寄贈しています。

管内4年生へちゃぐりん寄贈



▲ 対策を徹底するよう呼びかける講師

ながいも専門部は7月3日と8日、管内4カ所で栽培講習会を行いました。このうち、8日に福地野菜集出荷場で行った講習会では8人が参加しました。

農業普及振興室三戸分室の坂川雄亮主幹が講師を務め、夏場の集中豪雨が増加傾向にあることから、排水対策を徹底してほしいとしました。また、追肥が遅れると収量、品質低下の原因となるので、適期追肥に努めるよう説明しました。さらに講師は、「やませ風の影響で風が湿っており、温度がそこまで上がらない状況が続いているため、病気がでやすい。予防散布の徹底をお願いしたい」と生産者へ促しました。

ながいも 適期追肥、排水対策の徹底を



▲ 作業応援する職員

三戸営農センターではプラムの共撰を最盛期には2,000コンテナ(1コンテナ12kg)選果しています。7月10日から15日にかけて、JA職員が毎日、業務終了後の17時から交代で各部署から作業応援に加わり、荷受けやバック詰めなど農家の所得向上を後押ししました。

JA担当者は「目標金額を達成できるよう、計画出荷に努め、販売していく」と話しました。

プラム・プルーン専門部が販売数量を307t(前年比106%)、販売金額1億7千6百万円を目指します。

プラム選果作業 職員が応援



▲ 説明に耳を傾ける参加者

にんにく専門部八戸支部は7月10日、福地野菜集出荷場で目揃会を行い、29人が参加しました。

五戸営農センターの木村友彦係長がにんにくの販売状況、製品ごとの出荷規格の確認や入庫方法、加工にんにくの取扱いについて説明しました。

JA八戸管内のにんにくの生育については、小玉傾向にあるが、A品率は平年よりも高い傾向となっております。

にんにく目揃会 出荷規格や入庫方法確認